

<令和 7 年 6 月 定例記者会見>

1 開催日時

令和 7 年 6 月 5 日（木）午前 10 時 30 分～午前 11 時 00 分

2 場所

滝沢市役所 庁議室

3 来庁した報道機関

岩手ケーブルテレビジョン、読売新聞社、河北新聞社、岩手日報社

4 発表事項

（１）チャグチャグ馬コを未来に残す支援自動販売機除幕式について（観光物産課）

みちのくコカ・コーラボトリング株式会社様が、チャグチャグ馬コの保存継承の支援を目的に、専用の自動販売機の売り上げの一部をチャグチャグ馬コ保存会の馬資源確保事業へ寄付することについて取り組まれることとなりました。

専用の自動販売機は名称が「チャグチャグ馬コを未来に残す支援自動販売機」であります。

この度、第 1 号機が滝沢市役所に設置されることとなり、除幕式を 6 月 10 日（火）に開催いたします。

また、今回の支援自動販売機は、取り組みに賛同いただいた市内の事業所等へ展開が予定されているほか、盛岡市、矢巾町を中心に設置を広める予定とお聞きしております。

（２）令和 7 年度チャグチャグ馬コ行事について（観光物産課）

本年度のチャグチャグ馬コ大行進を 6 月 14 日（土）に開催いたします。

出馬頭数は 64 頭（昨年は 60 頭）を予定しており、チャグチャグ馬コ同好会滝沢支部からは装束馬 41 頭（昨年は 39 頭）が参加の予定です。鬼越蒼前神社を 9 時 30 分に出発し、盛岡八幡宮を目指します。

昨年度のチャグチャグ馬コでは、17 万 5 千人という過去 3 番目の人出を記録しました。この地域の文化が高く評価されたものと理解しており、多くの注目を集めていることに高く期待しております。

チャグチャグ馬コには、愛馬の無病息災を願う人々の祈りが込められています。現代の街並みと歴史ある馬事文化・愛馬精神が融合する「チャグチャグ馬コ」を、ぜひ多くの方々に見ていただければと思います。

なお、チャグチャグ馬コ大行進を盛り上げるため、滝沢市観光物産協会の主催において、前日の 6 月 13 日（金）にはチャグチャグ馬コ写真撮影会が、当日にはビッグルーフ滝沢にてふれあいまつりが開催されます。詳細については、別紙のとおりです。

さらに、ふれあいまつりにおいて、滝沢の日本酒「ばっばれ」夏の酒、生貯蔵酒 300 ml 入りを税込 900 円にて販売する予定としております。200 本限定販売品であり、チャグチャグ馬コ限定ラベルとなっておりますので、ぜひこの機会に味わっていただくと幸いです。

また、ふるさと納税の推進及びチャグチャグ馬コの継承を目的とするふるさと納税制度を活用したクラウドファンディングを現在実施中です。6 月 2 日（月）正午現在の寄附額は 851,000 円となっております。

7月5日（土）までの受付期間となっており、チャグチャグ馬コ大行進当日もふれあいまつりにおいて、クラウドファンディングのブースを出展予定です。人と馬とが一緒に築いてきた風景を後世に残していくため、引き続き皆様の温かい御支援をどうぞよろしくお願いいたします。

（３）令和７年度滝沢市消防演習の実施について（防災防犯課）

滝沢市消防団の総合防災訓練及び特別訓練の機会とし、また、住民への防火思想の高揚を図ることを目的として、6月29日（日）に、ビッグルーフ滝沢防災広場にて令和７年度滝沢市消防演習を開催します。

今年度は、初の「ドローン物資輸送訓練」も行われます。これは、3月に市と包括的な連携協定を結んだ、ドローンピーク運営会社であります湊^{みなと}運輸倉庫株式会社様のご協力により、ドローンによる市指定避難所へ災害物資を輸送する訓練となります。

その他、ふじなでしここども園の園児による、幼年消防クラブ防火演技も披露される予定です。

５ 市発表案件について記者からの当日質問

記者：「チャグチャグ馬コを未来に残す支援自動販売機」設置の経緯について教えてください。みちのくコカ・コーラボトリング様からの打診でしょうか。

観光物産課長：そうです。みちのくコカ・コーラボトリング様からチャグチャグ馬コを支援する方法の一つとして打診があったものです。

記者：いつ頃打診があったのですか。

副市長：昨年度末頃に取締役から打診いただきました。

記者：売り上げの一部はどのように活用されるのか、現時点での想定はありますか。

観光物産課長：盛岡市と矢巾町と滝沢市で組織しているチャグチャグ馬コ保存会で、新しく馬を飼育する方への支援に活用されます。1頭につき40万円の補助となります。

馬を増やしたいという取り組みを支援していく予定です。

記者：既にある助成制度に使用していくということですね。

観光物産課長：そうです。

記者：チャグチャグ馬コへの出馬頭数が昨年度に比べ増加した背景を教えてください。

観光物産課長：先ほど申し上げましたチャグチャグ馬コ保存会の支援制度を活用し、昨年度から馬を飼育し始めた方もいらっしゃいます。今回は滝沢市部の方で3名が初出馬です。その中で、親子3代で出馬という方もいらっしゃって、家族内でも馬コを盛り上げていこうという機運もあり、頭数も増えていると考えます。

記者：もともと出馬されていた家族からの継承で初出馬に至ったというケースが多いのですか。

観光物産課長：今回の初出馬の方で2名はそのようなケースです。1名の方は昨年度、自分で馬を購入されて初出馬されます。

記者：チャグチャグ馬コ行進で、何か今までとの変更点がありますか。出馬頭数が増えたのは、保存会の支援制度が大きな理由ということでしょうか。また、支援制度の名称を教えてください。

観光物産課長：今回、大きな変更点はありません。例年通りとなります。出馬頭数増加の理由につきましては、支援制度も1つの後押しになったとは思いますが、今まで出馬していなかった方が出馬されるなど、家族で、もう一世代、孫世代が出てみようか、といった取り組みが結果につながっていると考えています。チャグチャグ馬コ保存会が行う支援制度の名称は、「馬資源確保事業」です。

経済産業部長：出馬頭数が増えた理由について、併せてお伝えするのであれば、装束の講習会なども継続して行っておりまして、その参加者の中でも、馬を飼ってみようかなと飼い始めた方もいらっしゃいます。どれが大きな理由ですというよりは、これまで地道に行ってきた取り組みが少しずつ花開いていると感じています。現在、チャグチャグ馬コが抱えている課題をクラウドファンディングなどで知っていただき、馬、馬を支える人、装束など1つ1つの課題を関係者含めて取り組んできた結果と感じています。

記者：出馬頭数64頭というのは、これまででは多いほうなのでしょうか。

観光物産課長：平成初期には102頭といった時期もあったので、その頃よりは多くないが、コロナ禍以降は徐々に増えてきています。

記者：クラウドファンディングは、チャグチャグ馬コ保存会でも行っているのでしょうか。

観光物産課長：滝沢市ではふるさと納税を活用したのもので、市内の馬コ保存継承のために行っているものです。保存会は、盛岡市と矢巾町も含めますので、全体でのクラウドファンディングを行っていて、保存会事業の馬支援に繋げるなどしております。

記者：滝沢市としても、保存会としても行っているということでしょうか。目的としてはチャグチャグ馬コを後世に継承していくということで、どちらも同じということですか。

観光物産課長：そうです。

記者：ふれあいまつりでのクラウドファンディングのブースというのは、具体的にどのようなものなのでしょうか。

観光物産課長：ふれあいまつりでも馬を1頭繋留します。馬と写真撮影もできる受付窓口を設置するので、直接そこで寄付していただく形となります。

記者：消防演習のドローン訓練は、どのような状況を想定したものでしょうか。

防災防犯課長：災害が発生して道路が寸断され、避難所に物資を運ぶ訓練となります。今回は実際にアルファ米を運びます。

記者：避難所で孤立した人へ物資を運ぶ訓練ということでしょうか。

防災防犯課長：そうです。

6 その他記者からの当日質問

記者：先日、岩手山の揺れが少しあり、警戒レベルに影響するものではなかったのですが、緊急の際、滝沢市ではどのような体制で動くのか、今後の方向性がありますか。

市長：有事の際には気象台からホットラインで連絡が入ることになっています。その際、どのような被害が想定されるのか、避難範囲を気象台の指導のもとに発令していきます。先日は要望活動で東京へ出張しており、市と逐次連絡を取り合っていました、離れているということだけでこんなに不安になるものかと実感しました。そこで、改

めて、八幡平市、雫石町と勉強会を開催できないか話し合いをしているところであり
ます。思い込みで行動したりすることがないように、勝手な判断で避難情報を流すこ
とがないよう、どのような状況が想定されるかを今一度話し合っていきたいと思っ
ています。この度の要望活動で、国土交通省にも岩手山の状況を説明しました。今後の
避難の在り方や、避難後の復旧復興の在り方も指導いただきながら体制整備に努め
ていきたいと考えています。

記者：市としての有事の際の指示の出し方、マニュアルはありますか。

副市長：基本的な形はできています。市長がお伝えしたのは、今回、市長も私も出張で
不在で、このような状況になった際に、改めてどのような行動をとればいいのかとい
うのを再認識しようということです。本部体制も含めて、対応できるようになってお
りますが、市長に直接情報が入るホットラインや、担当部署へ情報が入るものもある
ので、情報をしっかり入手しながら、どのように市民の皆さんへ発信するのも含め、
対応方法を再確認していきたいと考えています。